



2021年7月15日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 四国労組第 40 回定期大会

# 明るい未来を切り拓くべく労働運動を実践

J R 四国労組は7月9日、高松市において第40回定期大会を開催した。代議員、特別代議員ら総勢約110名出席のもと、スローガンに「団結 創造 実践」を掲げ、2021年度の運動方針を満場一致で決定した。J R 連合からは荻山市朗会長が出席し、連合香川の森信夫会長、四国交運労協の砂田篤志議長、J R 四国の西牧世博社長、ジェイアール四国バスの吉良次雄社長らが来賓として駆けつけた。

冒頭の挨拶で大谷清執行委員長（J R 連合副会長）は「安全・安定・安心輸送の確立」「組織の強化・拡大」「労働環境の改善」の3本柱に沿った所信を述べるとともに、「会社がコロナ禍という苦難を乗り越えようとしている中、J R 四国労組も社会変容に対応しなければならない。組合員が総団結し運動方針を着実に実践することで、組合員と家族の幸せに繋げよう」と訴えた。

また、来賓として挨拶に立った荻山会長は、あらたに策定した政策提言「将来を見据えたJ R 産業のあり方と私たちの働き方」に触れつつ、「J R 産業が国や社会を支える役割を持続的に果たし続けるために、私たちは社会変化に対応しこの難局を乗り越えなければならない」と力強く訴えた。

議事では2021年度の運動方針等が提起され、29名の代議員、特別代議員から質疑を受け、嶋田剛好書記長の総括答弁の後、すべての議案が満場一致で可決された。また、役員改選では幸大副執行委員長、嶋田書記長らが退任し、大谷執行委員長、武智義治副執行委員長、中村鉄平書記長を三役に選出し新たな役員体制を確立した。最後に、大谷執行委員長の「団結ガンパロー」で定期大会を締めくくった。

